



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

シーボルト校 研究紹介

Vol.1

長与町に立地する長崎県立大学シーボルト校。
すぐ近くの大学でどのような研究が行われているかをシリーズで紹介していきます。



片山徹也 准教授

情報技術を活用して “みんなにやさしいデザイン”を。

— 情報システム学部 情報システム学科 情報デザイン研究室 —

情報システム学科では、情報処理技術者としての専門スキルに加え、デザイン分野についても学ぶことができるのが大きな特色です。本研究室では、指導教員が色彩学やグラフィックデザインの授業科目を担当していることもあり、情報システム学科の中でもデザイン分野に対する興味・関心の高い学生たちが集まっています。研究室所属学生による卒業論文のテーマは、POP広告デザインのイメージ評価、画像編集ソフトを用いた眉メイク画像のレタッチ、まちがい探し問題を解く際の視線計測、カーナビに適したフォント評価、コンビニATMのタッチパネル画面上のボタンやキーボードの配色デザイン、モバイルECサイトのWEBデザイン等多岐に渡ります。グラフィックデザインを構成する諸要素や、モバイル端末・タッチパネル等のデジタルデバイス画面を介して提供されるコンテンツに着目し、誰もがわかりやすく使いやすいと感じる人

間中心設計(Human Centered Design)による情報デザインのあり方について研究しています。日進月歩のIT(情報技術)やICT(情報通信技術)を利便性の追求だけでなく、ユニバーサルデザインやアクセシブルデザインの観点から、心の豊かさも向上させるよう有効に活用するという視点は、今後ますます求められるといえます。

また、本研究室の所属学生たちは大学で学んだ知識やスキルを生かして、長崎市まちぶらプロジェクト「歳時栗名月 十三夜のつどい」や市民団体によるイベント「ながさき・愛の映画祭」のチラシやポスターを制作する等、地域や行政の方々との協働活動にも積極的に参画しています。大学内での学びや大学外での様々な体験を通じ、情報技術を活用した“みんなにやさしいデザイン”の実現を目指して日々の課題に取り組んでいます。



スマートフォン等画面の色度測定実験(学生実験室にて)。「色」には、心理面に様々な作用をもたらす効果があり、色情報を定量的にデータ化することで科学的検証や統計解析など学術的な研究に幅広く活用することができます。

モバイルデバイスの画面デザインに関する研究

